

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

豊岡市地方創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

兵庫県豊岡市

3 地域再生計画の区域

兵庫県豊岡市の全域

4 地域再生計画の目標

【地域の現状及び課題】

(1) 人口予測（基準推計人口）

豊岡市の人口は、今後減少のペースを加速し、2015年に82,250人であったものが2040年には57,770人（2060年には38,529人）になると推計されている。

その減少率はとりわけ0歳から19歳の若年人口で大きく、人口減少は今後さらなる少子・高齢化を伴いながら進み、2040年には、1人の高齢者を生産年齢人口1.0人（2060年には0.9人）で支える人口年齢構造になると予測されている。

(2) 人口減少の要因

豊岡市の人口移動は、①ほとんどの年齢層で転入・転出の数がほぼ均衡しているのに対し、②高校卒業後の就職・進学期（15～19歳）に大きく転出超過が見られ、③逆に専門学校・大学卒業後の就職期（20～24歳）に大きな転入超過となっているが、④15～24歳のトータルとしては、大幅な転出超過となっている。

加えて、未婚率が上昇していることから、出産適齢期の夫婦の数が減少して出生数が低下するとともに、その減少した子どもたちが成長して大学等に進む段階でまた転出超過になる、という悪循環にある。

他方で、近年、有配偶者女性1人当たりからの出生数は減少していないと推定できることから、今後急速に進む豊岡市の人口減少の主な要因は、上述の若者の転出超過と未婚率の上昇にあると考えられる。

(3) 人口減少による地域への影響

2040年までの25,000人近い人口減少は、現在の「豊岡地域の56%」、「城崎・竹野・日高地域のすべて」又は「城崎・竹野・出石・但東地域と日高地域の13%」の人口が消滅する事態に匹敵する。

しかも、この人口減少はさらなる少子・高齢化を伴いながら進行することから、推計のとおり人口減少が進むとすると、豊岡市は、コミュニティの崩壊・消滅、公共交通網の崩壊、地域経済の衰退、財政悪化に伴う行政サービスの低下、医療・介護などの社会保障費の増大等、深刻な打撃を受けることが明らかである。

【目標】

(1) 人口減少抑制対策の柱

人口減少対策は、これまでも過疎対策等、様々になされてきた。しかしその多くは、人口減少を前提にした上でその悪影響にどう立ち向かうかという、いわば適応型の対策であった。

私たちは、今後予測される人口減少の圧倒的な量の破壊力を直視し、将来世代のために、何よりもまず人口減少の抑制を全力で図らなければならない（量的緩和）。

具体的には、前述の豊岡市における人口減少の要因分析に基づき、減少要因そのものに手を付けることとし、定住する若者、とりわけ本市での女性の若者回復率が男性に比べて低いことから、若い女性を増やすことと結婚する若者を増やすことを対策の柱に据えることとする。

(2) 進行する人口減少下における地域活力の維持

現在の人口構造、社会移動、出生率の現状等を踏まえると、減少をゼロにすることは、長期にわたって不可能である。それどころか、人口ビジョンで明らかになったとおり、量的緩和策が功を奏したとしても、その2040年段階での効果は、2015年と比べた推計減少人口24,480人に対し4,395人の緩和と小さなものである。人口減少は依然として続き、地域活力を削ぐ力が今後も増大し続

けることを覚悟しなければならない。

そこで、人口減少トレンドの極力の緩和に加えて、それでもなお続く人口減少下において地域活力を維持する対策を同時に進める必要がある。地域活力の減退を人口減少の単なる量的緩和だけではとてもカバーできないとすると、地域社会・地域経済・地域文化のあり様の質的転換による地域活力の維持を同時に追い求めるほかはない。

しかも、私たちが今後投入できる資源を考えると、量的緩和策を通じて質的転換を同時に図るよう戦略を立てる必要がある。

(3) 基本目標

以上のことを踏まえ、「人口減少の量的緩和と地域社会・地域経済・地域文化のあり様の質的転換」を同時に図り、豊岡に暮らす価値を認め、豊岡で暮らすことに自信と誇りを持って住む人々からなるまちとして豊岡を蘇えらせ、地域活力を維持し、「暮らすなら豊岡と考え、定住する若者が増えている」状態とするため、次に掲げる基本目標の達成を図る。

- ・基本目標1 豊岡の暮らしの『豊かさ』が内外に知られている
- ・基本目標2 多様なライフスタイル・働き方及び多彩な事業活動が実践されている
- ・基本目標3 いきいきと暮らす女性が増えている
- ・基本目標4 豊岡で人々が世界と出会っている
- ・基本目標5 子どもたちのふるさとへの愛着が育まれている
- ・基本目標6 結婚したいと思う人が結婚できている

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始 時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合 戦略の主要手 段
ア	市ホームページの閲覧（セッション）数	831,716件	1,340,000件	主要手段1
イ	豊岡に価値や魅力を感じる	41.1%	60.0%	主要手段2

	市民の割合			
ウ	女性従業員の2/3以上が働きやすく働きがいがあると評価している事業数	0社	20社	主要手段3
エ	移輸出額	222,513百万円	231,753百万円	主要手段4
オ	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童・生徒の割合	44.85%	60%以上	主要手段5
カ	婚姻数	282組	287組	主要手段6

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

「暮らすなら豊岡と考え、定住する若者を増加させる」事業

ア 「豊岡の暮らしの『豊かさ』が内外に知られている」事業

イ 「多様なライフスタイル・働き方及び多彩な事業活動が実践されている」事業

ウ 「いきいきと暮らす女性が増えている」事業

エ 「豊岡で人々が世界と出会っている」事業

オ 「子どもたちのふるさとへの愛着が育まれている」事業

カ 「結婚したいと思う人が結婚できている」事業

② 事業の内容

ア 「豊岡の暮らしの『豊かさ』が内外に知られている」事業

地方移住を考えている若者、豊岡出身の若者、現に豊岡で暮らしている

人たちに、豊岡で暮らす価値や魅力を伝える取組みを行う。

【具体的な事業】

- (ア) 豊岡の良さが内外に伝わっている
 - ・豊岡ファンミーティング、文化と教育の先端自治体連携 等
- (イ) 豊岡を巣立った人たちが豊岡とつながっている
 - ・Uターン推進、Iターンワンストップ窓口 等
- (ウ) 移住・定住を検討する人に情報が提供されている
 - ・移住イベント出展、定住促進 等

イ 「多様なライフスタイル・働き方及び多彩な事業活動が実践されている」事業

魅力のある仕事の創造、多様性を受け入れ支え合う暮らしの創造などを支援する取組みを行う。

【具体的な事業】

- (ア) 働きがいがあり、働きやすい場が増えている
 - ・企業誘致推進、スマート農業推進 等
- (イ) 新たな事業や仕事にチャレンジする人が増えている
 - ・内発型産業育成、豊岡農業スクール 等
- (ウ) 豊岡の強みを活かして稼ぐ力が高まっている
 - ・環境経済推進、特産品振興 等
- (エ) 市民が多様な人々を受け入れている
 - ・多文化共生推進、アーティスト・クリエイター移住等促進 等

ウ 「いきいきと暮らす女性が増えている」事業

ジェンダーギャップ解消を図り、若い女性に選ばれるまちづくりを推進する。

【具体的な事業】

- (ア) 性別に関わらず地域での協働が進んでいる
 - ・ジェンダーギャップ解消推進、ファミリーサポートセンター 等
- (イ) 性別に関わらず夫婦が家庭内で支えあっている
 - ・ジェンダーギャップ解消推進、子育て広場管理 等
- (ウ) ありたい姿に向かっていきいきと働ける機会が増えている

- ・ワークイノベーション推進、子育て中の女性の就労促進 等

エ 「豊岡で人々が世界と出会っている」事業

豊岡固有の魅力をさらに磨いて世界の人々となつながら、あわせて優れた人材を内外から受け入れて、豊岡で世界の一流と出会う機会を広げる。

【具体的な事業】

- (ア) 世界中から人々が来訪し、豊岡を楽しんでいる
 - ・豊岡演劇祭開催、コウノトリ但馬空港利用促進 等
- (イ) メイドイン豊岡が世界に広がっている
 - ・コウノトリ育むお米ブランド化推進、アーティスト・イン・レジデンス 等
- (ウ) 国内外から優れた人材が集まり、豊岡の魅力を高めている
 - ・出石永楽館歌舞伎開催、城崎国際アートセンター事業 等
- (エ) 世界の人々と対等に向き合う人材が増えている
 - ・専門職大学連携、高校生コミュニケーション教育推進 等

オ 「子どもたちのふるさとへの愛着が育まれている」事業

豊岡に愛着を持ち、世界と対等に活躍できる子どもを育てるために、幼児期から小中高校へと一貫したローカル&グローバルコミュニケーション教育に取り組む。

【具体的な事業】

- (ア) 子どもたちが豊岡のことをよく知っている
 - ・ふるさと教育推進、子どもの野生復帰 等
- (イ) 子どもたちが様々なコミュニティの中で役割を果たしている
 - ・高校生コミュニケーション教育推進、ふるさと教育推進 等
- (ウ) 子どもたちが様々な人とコミュニケーションを楽しんでいる
 - ・英語教育推進、非認知能力向上対策 等

カ 「結婚したいと思う人が結婚できている」事業

結婚に至るまでの独身者に対する支援を行うとともに、様々な出会いの場や若者が集う場を提供することによって、結婚に結び付ける取組みを行う。

【具体的な事業】

- (ア) 若者が集い、交流する場が増えている
 - ・婚活イベント補助、専門員の設置 等
- (イ) 多種多様な出会いの機会が充実している
 - ・出会い機会創出、婚活イベント補助 等
- (ウ) 交際・結婚に向けた独身者へのきめ細かな支援体制が充実している
 - ・ボランティア仲人養成講座、結婚相談所機能拡充 等

※ なお、詳細は第2期豊岡市地方創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

150,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

【検証方法】

毎年度6月に学識経験者、市民等で構成する「豊岡市地方創生戦略会議」（座長：市長）において、KPI数値の推移及びその原因分析を踏まえ、取り組んだ事業と数値の変化の因果関係を再検証し、新たな課題への対応、向かうべき方向を議論し、必要な修正を行うことによりPDCAサイクルを回す。

【外部組織の参画者】

大学関係者、芸術関係者、京都丹後鉄道運行会社、たじま農協組合、豊岡市工業会、豊岡市商工会、婚活NPO、子育てセンター、地域FM放送「エフエムたじま」、城崎温泉旅館協同組合、民宿経営者、農業学習NPO、ボランティアグループ、市民

【検証結果の公表の方法】

市ホームページで公表

⑥ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで